スクールソーシャルワーカーが果たす機能

－実践家が重視する効果的援助要素の分析を通じて－

○　大阪府立大学大学院博士後期課程・神奈川県教育委員会ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ　横井　葉子（7537）

山野　則子（大阪府立大学・3203）

キーワード：プログラム理論、効果的援助要素、実践家参画型ワークショップ

１．研 究 目 的

スクールソーシャルワーカー（以下，SSWerと記す）活用事業における効果的な実践を可視化するために，プログラム理論（Rossiほか＝2005）[1)]を用いて「効果的なSSWer配置プログラム（山野・厨子・周防ほか 2012）」の開発が進められている．既に効果的援助要素（大島 2011）[2)]が明らかにされ，実践家参画型ワークショップ[3)]における検討を経て，プログラムマニュアル（山野・木崎・駒田ほか 2013）が完成をみている．

本研究では，実践家によって重視される，SSWerの実践プロセス[4)]の効果的援助要素の分析を通じて，SSWerが実践現場で果たそうとしている機能を明らかにする．

２．研究の視点および方法

１．に述べたプログラム開発過程では，SSWer活用事業を実施する全国の自治体の事業担当者およびSSWerを対象として，効果的援助要素とその効果（インパクト）を項目化した質問紙調査が2012年2～5月に実施され，効果的援助要素の実践度（5件法で聞いた平均値）とインパクトとの関係が明らかにされている．この分析結果を用いて，2012年度に全国のSSWerおよび自治体の事業担当者等を対象とした実践家参画型ワークショップが3回開催され，のべ94名の実践家とのフォーカスグループ面接における意見交換を踏まえて，効果的援助要素の再構築がはかられた．本研究では，このフォーカスグループ面接における実践家の発言を分析した[5)]．各効果的援助要素を重要とする発言に着目して録音記録をトランスクリプト化し，焦点的なコーディングを施して，上述の質問紙調査の分析結果もあわせて参照しながら，効果的援助要素とコードのマトリックスにまとめ，比較考察した．

３．倫理的配慮

本研究は，大阪府立大学研究倫理委員会の審査を受けて行っている．協力者に対して研究目的以外の利用をしないことを説明し，個人が特定できない配慮を行っている．

４．研 究 結 果

実践家の発言が質・量ともに集中していた効果的援助要素は，①関係機関や地域資源の変革を視野に入れた「地域のアセスメント」（質問紙調査の分析結果では，インパクトにつながるが実践度は低い），②子ども・保護者の「真のニーズ」を捉えるための「子ども・保護者のアセスメント」（同じくインパクトは高いが，実践度に課題がある）であった．

５．考 察

実践家の発言は，SSWer が学校現場から地域の変革を志向していること，それは「ソーシャルワークの価値に基づく」子ども・保護者のアセスメントに裏付けされていることを示している．これは，SSWer 活用事業がソーシャルワーク実践のプログラムとなるために重要と考える．

６．研究の限界

フォーカスグループ面接においては項目の重要度のほかにも焦点があったため，焦点化に限界がある．また，メンバーチェックが今後の課題として残されている．

※本研究は，科学研究費補助金（基盤研究A）「ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究」における「スクールソーシャルワーカー配置プログラムに関する研究」（研究代表者：白澤政和，連携協力者：山野則子）の一環として実施した．

【注】

1) 「プログラムが生み出すことが期待されている社会的便益や，プログラムがそのゴールや目標を達成するために採用する戦略や戦術に関連する様式に関する一連の仮説群．プログラム理論のなかでは，プログラム活動によってもたらされる社会状況変化の性質に関連したインパクト理論(impact theory)とプログラムの組織計画とサービス利用計画を示すプロセス理論(process theory)を区別することができる（Rossiら＝2005：63）.」
2) 「効果的援助要素(critical components)とは，実践プログラムの援助効果を生み出すことに関わる効果的なプログラム要素，プログラム実施方法のことである．（大島2011）．」
3) CD-TEP評価アプローチ法における「プログラム関係実践家・利用者とのフォーカスグループ面接，意見交換会（大島 2011）」.
4) 注1)中の「サービス利用計画」にあたる部分.
5) 第3回目のワークショップはインパクト項目の検討を中心としたため，分析対象外とした.

【引用文献】

大島巌(2011)『CD-TEP 円環的対話型評価アプローチ法実施ガイド』http://cd-tep.com/b/b-2/. 2013.3.14.

Rossi, P. H. , Lipsey, M.W. , and Freeman, H. E. (2004). *Evaluation：A systematic approach (7th ed).* London and New Delhi：Sage. （＝2005，大島巌・平岡公一・森俊夫・元永拓郎監訳『プログラム評価の理論と方法―システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社.）

山野則子・厨子健一・周防美智子ほか（2012）「スクールソーシャルワーカー配置プログラムに関する研究」白澤政和『ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究　第二報』, 38-91.

山野則子・木崎恵理子・駒田安紀ほか（2013）『効果的なスクールソーシャルワーカー配置プログラム実施マニュアル』大阪府立大学キーパーソンプロジェクト・効果的な SSWer 配置プログラムのあり方研究会（代表 山野則子）.